

1. 落合こども園の教育保育目標

〈保育理念〉

生きる力に向けて園児の望ましい育ちを支える

〈教育目標〉

心豊かで、人と楽しくかかわりながら、主体的にたくましく生活する子どもの育成

〈目指すこども像〉

- 元気な子ども
- 考える子ども
- 仲良くする子ども
- 感性豊かな子ども

〈目指すこども園像〉

- 安心安定した情緒と落ち着いた教育保育環境の中で、心豊かに健やかに育つこども園
- 保護者や地域に信頼され、愛されるこども園
- 安心安全な親と子どもの育ちの場としてのこども園

2. 本年度の重点目標(課題)

1. 豊かな人間性へとつながる基礎を育む

(1) 温かい人間関係を育む

- ・甘えや自己主張を受け止めてもらいながら、自分の気持ちを安心して表す園児を育てる。
- ・会話や絵本を楽しむ中で言葉を増やし、言葉による理解を深める。
- ・様々な遊びを通して、生活経験を広げ、自分のしたい遊びに喜んで取り組もうとする園児を育てる。

(2) 関わり合う力の育成

- ・人や自然との関わりの中で、様々な体験を積み重ね、豊かな心情と道徳性の芽生えを培う。
- ・保育教諭との安定的な関わりの中で、模倣遊びやごっこ遊びを楽しみ、友達との関わりを深める。
- ・様々な環境に自ら関わり、意欲的に遊びや活動に取り組み、友達の良さを認めながら、自分の思いを様々な方法で表現する園児を育てる。
- ・友達と一緒に伸び伸びと活動し、身近な人や環境に意欲的に関わり、互いに認め合いながら、やり遂げようとする園児を育てる。

(3) 健康で元気に生活する園児を育てる

- ・一人一人の園児の発達段階や家庭環境などを考慮しながら、安心して心身共に健康に過ごせるようにする。
- ・一人一人の健康状態を把握し、職員間の共通理解を基に進めていく。
- ・家庭との連携を密にし、個々の発達に応じた環境や援助の工夫に努め、情緒の安定や生活習慣の自立を図る。

- ・園児の育ちに合わせた食育活動を通して、楽しく食べる心を育む。
- ・保育教諭との安定的な関わりの中で、基本的な生活習慣が身に付き、自分でしようとする園児を育てる。
- ・基本的な生活習慣や集団生活における態度が身に付き、見通しをもって生活しようとする園児を育てる。

(4) 小学校への学びの連続性を考える

- ・接続を意識した交流活動を目指し、事前事後の協議を行い、活動の共通理解に努める。また 5 歳児のみの交流活動に留まることなく、他学年にも情報共有する。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を基に各年齢の発達していく方向を意識した指導を積み重ねていく。

2. 信頼されるこども園づくり

(1) 開かれたこども園づくりの推進

- ・保護者が相談しやすい環境を整え、保護者の思いを受け止め、一人一人の発達段階に応じた教育保育に当たる。
- ・園開放や園庭開放を行い、子育て支援につなげていく。
- ・園の情報発信を定期的に行う。
- ・地域の教育力を借りた教育保育の推進に努める。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	学校評議員評価
教育保育課程・指導計画	教育保育課程を意識し、立案している。年齢や個々の発達段階を把握し、計画に生かしてきた。日々の記録から園児の育ちを捉え、次につながる計画となるよう努めていきたい。	3	4
行事	コロナ禍の中、園児の生活に必要な経験ができるよう、園内での行事の充実にも努めてきた。また、行事のねらいを明確にすることで、園児の成長につながったと感じている。	3	4
組織・運営	責任をもって、担当業務を進めることができた。運営等についても意見を出し合いながら、協力し行うことができたが、担当外の業務についての共通理解は、不十分であった。	3	3
学級経営	一人一人を受容し、丁寧な教育保育に努めてきた。個々の発達段階に寄り添うクラス運営を今後も心掛けていきたい。	3	4
特別支援教育	外部関係機関と連携しながら、進めてきた。また育ちや課題等を的確に捉え、援助に努めてきた。保護者と園とが同じ思いをもって関わるように連携してきた。	3	4

安全管理・保健指導	コロナウイルス感染症対策に関しては、担当課の指示の下、職員間での共通理解を図りながら取り組んできた。安全管理に関して、全職員間での共通理解が更に必要である。	3	4
研修(資質向上)	園外研修の報告を必ず行い、全員研修の場となるよう努めてきた。園外研修の機会が少なかったが、一人1回は、研修に参加することができた。	3	3
情報提供・保護者・地域との連携	新型コロナウイルス感染症予防対策で地域との行事が全く実施できなかった。次年度に向けて、感染症対策をしながら、再開していきたい。情報発信については、各便りの他クラスごとのお知らせボードや連絡帳・HPの掲載などに取り組んでいるが、保護者の方に分かりやすく明確な情報の提供になるような工夫が必要である。	2	4
小学校との接続・連携	コロナ禍で交流会等中止になったが、運動会や園外保育などを通して、小学校を知る機会をもった。次年度は、年度当初より計画的に連携を深めていきたい。	2	4
子育て支援	園開放・園庭開放を実施している。いつでも相談できるよう、保護者との信頼関係の構築に努めていきたい。	3	4
食育の推進(給食)	季節の野菜栽培や調理体験の実施。食材の関心を高めるとともに、マナーについても家庭との連携を図っている。	3	4
食事の提供(調理)	安心安全な調理の徹底。食物アレルギー児や離乳食児への細やかな対応ができた。	4	4

4. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等(学校関係者評価委員総合所見含)

- ・保護者アンケートの結果から、園運営について、コロナ禍でも感染対策考え、園行事等の実施や安心安全な環境での教育保育を行った感謝の気持ちや理解を示されている保護者の思いが伝わってきた。回収率も高く、自由記述についても多くの意見が寄せられていることなどから、高評価につながっているとの意見をいただいた。また園からの情報発信については、明確な情報提供の方法を工夫し、園の意向(理由)を伝えても良いのではないかと。先生の負担軽減になるよう努めてほしいとの意見もあった。
- ・自己評価に関しては、安全管理や保健指導について、本来完璧(評価4)であるべきではないかと。との意見があった。安心安全な環境で教育保育ができていいるのだから、適切な評価となるように職員の意識の統一をしてほしい。またコロナ禍の中で様々な行事が中止となっているが、そのことが評価を下げる観点でなくていいと思う。リスク回避のため仕方がない。行事が中止となっても先生方の工夫で園生活が充実したものとなっているのだからと言う意見もあった。
- ・職員研修の機会が少なくなっていないか。全員研修の重要性も感じるとの意見もあった。
- ・評議員として、園の様子等関心をもって、関わっていきたい。地域の良さ・人材を活用した園運営をしてほしいとの意見を伺った。

6. 評価結果・考察等(学校関係者評価委員総合評価)を受けての具体的改善方策等

- ・園からの情報発信については、各お便りやお知らせボードなど、保護者の方に分かりやすく的確な情報が提供できるように、早めの発信や職員間の情報共有、共通理解に努めていきたい。また日々の園生活が伝わる情報の提供も工夫して行っていきたい。
- ・子育て支援の観点から、保護者の方が話しやすい相談しやすい雰囲気づくりに努め、安心して預けられるこども園を目指していきたい。
- ・自己評価については、評価基準の説明や意識の統一が必要であると感じる。自身の教育保育を振り返り、次年度へつなげる大切なツールとして生かせる評価にしていきたい。
- ・職員研修に関しては、資質向上のため、重要であると考えている。全職員が様々な研修に参加し、園内研修で情報共有を行い、園全体の資質の向上に努めていきたい。
- ・地域のこども園として、地域を知る・地域の方の力を借りる教育保育に努めていきたい。コロナ禍ではあるが、園児にとって豊かな経験となるように考えていきたい。
- ・小学校との交流や連携については、1年を通して計画し継続した交流となるように検討していきたい。事前事後の協議を行い、互いのねらいや課題を明確にし、次の交流につながるようになっていきたい。また5歳児との交流が主になるが、アプローチカリキュラムを含め、職員間で情報共有や共有理解が必要であると考え。
- ・職員の業務内容や事務等の簡略化に向けて、検討が必要と感じる。安心安全な環境を整えるために職員の心と時間の余裕は、不可欠である。園児も保護者も職員も笑顔で過ごせるこども園となるよう、保護者の理解を得ながら考えていきたい。

学校評議員・園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である